



494.2
Or-17
8

No. 288

岩永道房印

楠林先生正流外科法 八卷



阿蘭陀流
外科法

水集

卷七

阿蘭陀新傳 楠林先生正流外科法水集 卷七

目録

フレスステレエギル

金玉膏

三輝膏

仙人膏

無油デキステイビ

又方

カスガ膏薬



富士川文庫

3072

乳岩之奇膏

イングエントイケビシヤコニ

又方

ア、クワメリクリヨム

ブランドイニカンフル

ラウメント

當流古来用ユル一方

エレキセイルホタアト

カリヤス

生肌散

乳麵散

又方

吹喉散

茄連散

口中万病散

チヤン煉様

テレメンテイナ之説

宮先生治験

諸膏合方之例

カツフラスマ之類

蒸薬

都而十七方

ラウム下之類

都而十三方

外ニ五各門ニ出

右第^七卷水集目錄終

荷蘭陀新傳猶林先生正流外科法水集第^七



未^第得^電子^岩永^道房^甫

謹集

此ノ書中ニ出ス諸方ハ師家先々ヨリ面説口授シテ後各自

ニ潜力ニ記シ置ク者ナリ蓋シ其傳數々スルトキハ相共ニ其真

ヲ失ワシテラ恐ル故ニ是ヲ筆記シ又當流諸説ノ内ヨリ用

サ藥ノ例並ニ効驗等ヲ撰出シテ補之

〇フレムステレ^耳ルノ方

得達謂是レ阿蘭陀医ノ方ニアラス即チ榮休先生建立ノ方ナリ實ニ曰
用ノモ、方希代ノ神方ナリ蓋シ古流ノ書ニ和語ニテカ能膏ト云フ
妾語ヲテレエギルト云フ然レバ榮休先生モ是ノ意カ予妾語ニ通セ
ザレバ其ノ意ヲ知ラス但シ是ノ膏ノ効カニ於テハ真ニカ能ナリ

○藥品

レシホニスヲ、リヨ

アゼトウナトモ云フ得達謂ホルトガル国ヨリ出ル
草ノ實ノ油ナリ依テ俗ニホルトノ油ト云フ諸膏
菜ニ入レ用エ種朝ニテハ代ニ生シボリノ胡麻ノ油ヲ
用ユシ

マシテイカ 豚ノ油

六十钱

金炉糟 蜜陀僧

七十钱

極細末

光明丹

二百钱

古松脂

六十钱

極細末

右五種

○煉り様

右ノ内用ルトノ油 豚ノ油 炉糟ノ三種ニ水ヲ見合入哉火ニテ
心長ク煉ルベシ是ヲ炉糟煉リト云羊煉リナリ切丹ヲ入又ヒタト煉
リ水気去レバ赤色変ズ其時色ハ好ミニ任ス口傳 能キ時ト思フ
トキ鍋ヲ下シ急ニ冷水ヲ大分鍋ノ中エ入レ色ノ変スルヲ止ムレバ冷
カクマリテ膏成ル此後水ヲカエ捨テ跡ニ殊立合程残シ松脂ヲ入
又鍋ヲ火上ニ置キテ長クユルクト煉ル是ヲ湯煉リト云フ口傳得達謂
此ノ膏至テ

ムツカシ、自ラ子リテ覺ユルニシカズ種々ノ麦アル膏葉ナリ羊子リ湯子リトモニ又シクユル
ト子ルガヨシ短日ニハ羊子リ一日湯子リ一日長日ナラハ早朝ヨリ夕ニ子リ上ケルベシ

○油分里

友山先生ノ考

立春ヨリ春分迄

四百目

春分ヨリ立夏迄

三百五六十目

立夏ヨリ小暑迄

三百二十目

小暑ヨリ處暑迄

三百目

但シ大暑中ハ
二百八十目

處暑ヨリ秋分迄

三百二十目

秋分ヨリ立冬迄

三百四十目

立冬ヨリ大雪迄

三百七八十目

大雪ヨリ大寒迄

四百目

但シ大寒中ハ
四百三四十目

右卯辰巳三ヶ年誠ニテ記シ畢ヌ充年ニ依リ寒暖不同アリ

少々ツ、ノ加減勿論ナリト云

○主治

性微温一切諸腫物ノ口明キテ後ニ貼ス能ク膿ヲハカセ肌肉ヲソダテ
餘毒ヲ尽ス或ハ氣虛血虛ノ痛ヲ和ラゲ又風痰ノ痛ヲ和ゲ
腫ヲ消シ肉ヲソダツ其外諸用但シ金瘡或ハ跌撲傷損ニハ
用ユベカラズ是ハ松脂入ル故ナリ

○金玉膏

フレムステレエギル
イニクエントバジリコン
右二膏等分合劑ナリ

性大温主治癰疽一切疔瘡瘡ヲ治スルコト奇々其外一切之腫瘍
肌肉腐爛ノモノ或ハ湯火傷損或ハ疥癬ノ類都テ皮膚ノタ
ダレ破レタル類ニ紙毛綿ワタメイチヤ等ニテ見合セ諸用但シ膿
口ノミ有リテ内廣キ物ニハ用ヒズ又肌肉腐爛ノ物ニテモ黑腐
臭穢毒氣ツヨクハシバラクイケビシヤコンベレシヒタアルノ類常
治ノ如クシテ毒勢カスルキハ此ノ膏ヲ用ユベシ又年久シキ虚症ヲ
治ス安實ニ日用奇驗ノ神膏ナリ

得竜考

○三輝膏

金玉膏ニアルホニカンフラアトヲ半分加エタル者ナリ

性平主治是レ皮膚濕爛ノ表症ヲ治スルコト奇ナリ或小瘡一雁

瘡一切表濕ノ瘡毒或ハ諸腫物八九分正肉上リテ後此膏ヲ貼
スレハ肌皮ヲ生ジテ心ヨク愈ス下疔瘡ニ尤良シ

得竜考

○仙人膏

仙人草

和名仙人カヅラ又タカタトモ云フ六月土用ノ内ニ取り葉
ヲ臼ニテツキタラシ布ニテシホリ漉シ青汁ヲ取り見合ニ

松脂

胡麻油

七十錢

右二種煮解カシ前ノ仙人草汁ト合シ日者日ニ當テシバク煉ル
如此日數ヲ経テイニグエントエニプラストノ間ノ加減ニ子リツメ
器物ニ入貯シ直キ使フ但シ夏ノ炎日ニアラザレハ煉レズ

野

四

性温主治一切腫物ノ腐肉怒肉ヲ能ク流ス灸一癰痼ノ濕毒
腐肉努肉アルヲ去リ能ク正肉ヲ揚ク平メイチヤニ付テ用ユ

○無油テキステイゴ 古倉瘡書中 古仕撰書中同方共ニコ、ニ字ス

テレメンテイナ 二十支

玉乳香 五支 極細末

雞子黃 二筒分 但シ白ミハ不用

右テレメンテイナヲ器物ニ入丹次ノサ化ノ水ヲ見合ニ入レ數十遍研
リ交ゼテレメンノ色白ク成リタルトキ丹花ノ水ヲ去リ残ル二種ヲ入
レ又能クク子リ交ゼ合セ使フ火煉ヲ用ヒズ

○又方 古仕撰書中ニ是トモニ方アリ

テレメンテイナ 十支 茨ノ花ノ水ニテ研ル一同断

車前水 見合 法油ノ書茅四火集ニアリ

メルロサアロシ 五支 法同集ニアリ

大黃 一支 羊

川芎 一支 羊

右テレメン車前水ノ二種ヲ器物ニ入研リ合セ後残リノ三種ヲ入
又子リ合メ膏ト成ス是又火煉ヲ用ヒズ
二膏トモ主沙頭部其外何レニテモ骨ニ近キ金瘡諸腫物等

ニハ油膏ノ類ヲ甚禁ズベシ若シ誤テ油膏ヲ侵セハ瘡淹テ収
マラス大ニ慎ミ恐ルベシ都テ骨所ニハ金瘡諸腫物トモニ始終此ノ
膏ニテ仕立ツベシ若シ佗醫ノ療治ニ誤テ油膏ヲ用ヒ瘡治
セザルヲ療治セバ骨上ニカリヤスヲ振り拭ケ油膏汚濁ノ
氣ヲ去リテ後治ヲ行フベシ

○カスガヒ膏 某

金瘡書中ヨリ写ス

玉乳香

三钱 未

蘇香油

五钱

右二種交セ合セ者其解シ布ニテ漉シ温カナル内ニ羽二重ノ切レ等

ニ伸ベ付ル是レハ皮与膚ヲトテ付ケ置ク膏某ナリカスガイノ如シ
金瘡等面部ナトノ瘡痕ノ残ラシテテ恐レテ用ユ此膏某ニ系
ヲ掛ケ縫ヒテ直キニ皮肉ヲ縫ワズ

○乳岩ノ奇膏

伴撰書中ヨリ写ス

乳香

十钱

没药

十钱

二種同ク醋ニ浸シ一日一夜置キ

右乳没ノ二種醋ヲ去リ

黄蠟

八钱

右ノ三種同鍋ニ入者トカシエニフラストノ如ク油ニテ加減ス鍋ヲ

下シ 輕粉 一匙入レ

能々交ぜ合シ毛綿ニ伸べ貼ス上ヲタミ毛綿ニテ卷キ置クベシ若シ皮
上破レタル者ハテヤホニホリコスヲ綿ニ伸べ貼ス乳岩ノ初メ大豆ノ
如ク其若子ノ如ク漸ク長大ニ成ル者乳麵散或ハタラアヌスコメクリ
ヨシ等ヲ貼メ消散セザル者心能ク消ス

○ イニグエントイケビシヤコニ

膏書ヨリ移出

スハニスクルウニ

銅録青 エルコトモ云フ

五十钱

アルイニヘルハラアル

胡荽

八钱

ホウ子キ

白蜜

百钱

アスイニ

醋

百二十钱

右一度ニ鉛ニ入炭火ニテ徐々ト子リ交ぜ色赤クナルトキ鉛ヲ下
ロシサマス

性寒主治諸腫瘍ノ腐リヲ止メ惡肉ヲ去リ正肉ヲ生ス洗モ
諸用

○ 又方

エルコ

銅録青

四十钱

ホウ子キ

白蜜

百二十钱

アスイニ

醋

九十六钱

煉リ様同前

性寒、主治一切ノ痛或ハ金瘡或ハ筋骨ノ腐リヲ止ム

○ア、クワメリクリヨム

石灰

一升

ソツピルマアト

一钱

大毒ナリ傳アリ輕々シク用ユベカラス
代ニ卅卷ヲ三钱用ユシ

右藥湯二升乃至二升五合程入カキマゼ置キ上澄ミニテ洗ヒヌ
ルベシ

主治第一鶴掌風

俗ニウラムシ
ヒムシト云フ

ヲ洗フ又ハ疥瘡癬瘡白永ル瘡等

ヲ治スル一速カナリ

得竜按スルニ蒲黄ヲ
三步一入ルバ尤妙ナリ

○フランドイニカニフル

得竜認燒耐ヲフランドイニト云ヒ樟腦ヲカニフ
ルト云フ樟腦燒耐ト云フト同シ

燒耐

一升

樟腦

二十钱

是レ阿蘭陀ノ方ナリ榮休先生右ノ内工

紅花

四钱未
血ヲ活シ痛ヲ止ム

小茴香

四钱未
肝經ノ主薬能ク筋骨ヲ
和フ

此ノ二味ヲ加エフラスコエ入封シ置キ便フ今用ユル方ナリ

主治一切ノ腫瘍ニヌリテ血熱ヲサマシ毒氣ヲ消散シ疥癬ノ

類ニヌリ洗フ俗ニヒゼン瘡ト云フモノニ妙ナリ又ラウメントヲ合シテ

右良凍瘡ニモラウメントヲ等分合メ洗フ耳痛停耳ニハ耳中エ

シタテ入ル痒瘡腫痛ニアツク温メ毛綿之切レヒタシテ卷キ置

クベシ甚ホメク者ナリ但シ打身ニハ忌ム都テ鳥ノ羽ニテヒキヌルベ

三宮先生ノ此ノ某香竄ノ劑ナレハ小兒ノ腫物ニ忌ムベシト 得竜詔
按スルニ生姜汁ヲ熱湯ニ合メ用ユレバ此劑ニ似テカワシ宮先生ノ
説ニヨレバ是ヲカヘ用ヒテ可ナラニ又醋ヲ加エ温メ用ユレバ強ク疥
血ヲ去リ腐ヲ止メ肌肉ヲ整フ○渣ヲ去リ置カザレバ温ムル
トキ滞キ上リアヤマナ有ルニアリ 得竜考集

○ラウメント

又一方アリ
金瘡附録
矢鉋部出

得竜詔諸流ノ書ヲ考フルニラウメントノ方數方アリテ又主治スル所モ
異ナリ按スルニ此ノラウメント、云フハ變語ノ洗菜ト云フトニ數方アレ
トモ當流ニテハ此ノ方ニ不尽ノ効アレハ外ヲ看破シテ此ノ一方ノ名ノ
如ク思エサスルモノナラシ師家代々此ノ一方ヲラウメント、稱シ来リテ此
ノ説ナシトイエドモ後考ノ為メニ予ガ愚意ヲ述フル者ナリ當流外
ニモ洗菜ト云フモノ數方有リトイエトモ此ノ意ヲ考エテ斯ノ方
ヲ專トスベシ又金瘡書ニ當流ニラウメント、稱スル一方アリ某少
シ異ナリ可考

燒酎

一升

蘆薈

燒テ未

沒藥

未 各二十枚

右合メフラスコニ入レ密ニ封ジ置キ使フ

主治一切ノ腫物ニ用ユ當流第一ノ洗菜ナリ諸腫物正肉八九分揚
リ膿水減ゼバ洗ヒテカワカシ愈スベシ又虛腫ニナリ膿水久シク止マ
サルヲモ能ク愈ス又腐肉アリテ正肉思ヒアワズンバイケビシヤコシ加
エ又肌肉カワキテ愈エズンバメルロザアロシヲ加エテ滋ホシ愈ス又都
テ真深キ腫物瘡口愈ヤスク瘡内治シカタクニハイケビシヤコシヲ
加エテセシメイナリ瘡口エ刺シ内エハ水突ニテ強ク洗フ又丹
卷イケビシヤコシヲ三品合メ年久シク愈カタキ諸腫物ヲ治ス又糸丸

瘡ヲ洗フ不凍風瘡小瘡ヲ洗フニブラシドイニカンフルヲ合メ效其
外諸瘍大依カクベカラズ 得竜集メ考

○ 正キハセイルホタアト

燒耐 三合

蘆薈 燒テ末十五枚

没薬 末十五枚

サフラン 末十三枚 代ニ紅花ヲ用ユモ良

右交合シフラスコニ入口ヲ封シ置ク

得竜詔師傳ニラウメントニ紅花ヲ加エ
用ユ誠ニ分量ニ依ルヤラニ効ウスニ

主治一切口病ニ用ユ 各病門ニ見ユ 又痔疾大便秘結ニ十露程別ノ燒
耐ニ入レ服ス若シ大便通ゼズニバ再ヒ二十露ヲ服ス

○ カリヤス 傳

杜若ノ根ノ一ナリ

陰干ニメ極細末

主治一切骨疽ニ用人骨ニ油膏ノ類ヲフルレバ肉付キ合ワズ愈
ガルモノナリ依テ當流ニハ金瘡諸瘍トモ骨ニ近キハ無油ノデキス
テイビラウメントノ類ヲ用ユ若シ誤テ油膏ヲ侵スカ又ハ他医ノ跡
ニテ此ノ症ト知ラバ此ノ菜ヲ骨ニフリカケ油氣ヲ吸ヒ取ラセ清クシテ
法ノ如ク療治スベシ 得竜考工五山港リロスハニ用テ妙

○ 生肌散

鷺鷥紫花根

川芎

瓜蒌根

各等分

右三味極細末合メ捻リ掛ル

主治諸腫物八九治メ後正肉掛リカヌルニ用ユ腐骨ノ症ニハ枯骨ノ分去リ尽テ後正骨工正肉掛リカヌルニ用テ妙

○ 乳麵散

乳香

十五钱

麵粉

十五钱

駒引草ノ花

陰干ニ钱

小茴香

三钱

紅花

五钱

右極細末メ熱湯ニ乳汁或ハ生姜汁ヲ加エ能クく子リ患

所ニ厚クヌリ付ケ上ニ揉ミ嫩ゲタルヒキサキ紙ヲ張り置ク

○ 又方

乳香

十钱

麵粉

八十钱

挽茶

十钱

右極細末メ熱湯ニテ子リ厚ク付ケモミタルヒキサキ紙ヲ蓋フ
生姜汁ヲ加テ尤妙

二方主治乳岩瘰癧痰核结核等ノ硬キヲ消散ス又痛風
ヲ治ス痛風ハ日数ヲ経ルトモ膿ミ又破レナドスルモノニアラズ骨
節ノ間ヲ走リテ痛ムバカリナリ此ノ方奇奇妙々又其外諸

用蓋シ後多方日用効驗ヲ見ル_一神ナリ 得竜考

○吹喉散

昆布

燒テ五十錢

李^{スモ}實

燒テ十錢

地黄

十五錢

米泔水ニ浸シカワカシ刻ミ

右三味極細末メ研リ合セ患所エフリカケ或ハ指ニテヌリ或ハ吹

キ管ヲ以テ吹キ入ル、

主治咽喉口中舌瘡齒一切牙齦腐爛臭穢ノモノヲ治ス

○茄連散



茄子

塩漬ケ七年ナルモノ
黒ヤキ大

黄連

中

香附子

中

甘草

少

右細末メ合ス

主治走馬疳其外口病一切ニ効

○口中万病散

アカサ

土用ニ取リ
黒ヤキ大

梅干

黒ヤキ中

絡石

毛ヲ去リ莖葉トモ
黒ヤキ中

昆布

黒ヤキ大

黄栢

黒ヤキ
中

枯荖

小

右細末合ス

主治口病一切ニ用エ痛所ニ付ル又含ミテ吉シ若シ口熱ツヨクバ
石膏ヲ少焼テ加フ

○チヤン子リ様

唐船紅毛船ヨリ持テ渡ルモノ又和邦ニ製スルモアリトイエ
急ニ求メカクキトキハ

松脂 一分ニ
胡麻油 五十目加工

右煮解カシ布ニテ水中エ漉シ入ル如此スル一三度シテ用ユ

○論説ニ曰テレメニテイナハ蠶物ニ和産ナシ傳エ云フモミノ木

人脂ト若シテレメニテイナキトキハ是ヲ用ユベキカ

師説ニ曰富先生肥後國久苗井ノ一幼女ヲ治ス時ノ中腐爛疼

痛シ膿水大腸エ流レ入治シガクシ富先生是ヲ治スルニラウメニト

ラ水突キニ盛リ洗フニ酒気大腸ニ入り薰蒸シテ酔ヒニノ苦ム

因テ水煎メノ洗ヒ膏某ハバジリコニラセシメイチヤニ付ケサシ上ニ

テレエギルヲ蓋ヒ一旬ニメ平愈スト是レ脾胃ニ食毒ヲ受テ湿

熱ヲ積デ發出シタルナリ

諸医手ヲ尽ストイエドモ外膏某ヲ付ルノミナレバ愈ズ深ク濃汁ヲ内ニ貯エルトキ
ハ疼痛甚シクシテ二三日ノ内不食シ元氣ヲトロエテ危急ノ症ニ似タリ然レドモ瘡口
甚タ細クシテ其上閉ジテ内ニ含ム漸クハリヤブレテ快然タリ如此スル一四五度ニ及
ブ医俗不治トス是ヲ治スルニ長ケ四寸斗リノセシメイチヤヲサシ次ニフトクス

内ノ膿水ヲ含マザラシム又ヨウメイニトヲ水突キニモリアルロサアロシヲ加エテ洗フ是又焼酎ヲ汁腸胃エ落シ入又痰水ニ交リテ口中エ出酔テ甚タクルシム依テヨウメイニトノ焼酎ヲ水ミカヘアルロサアロシヲ加エテ洗ヒ外ニ公蘇葉ヲ用ヒ附子餅ノ灸ヲス膏葉ニヨムクスヲヒキルテヤハルノ類ヲ用ヒ全ク愈又一人腰ノ辺リニ腫物ヲ発シ小瘡ロヲ発シ内ニ大ニ膿ヲ含ムヲウメイニトヲ以テアラフニ大キニ酔フ依テ大依右ノ治方ニシタリ

○膏葉合方ノ例

得毒調當流仕撰書中傳書中ヨリ撰出シ集ム是ノミ限ルベカラズ是ヲ以合方意味ヲ知ルベシ

○イニグエントバジリフニ

プレシピタアルヲ合スレバ 但シ少シ加フベシ

腐肉努肉ヲ強ク流ス

プレシピタアルト イケビシヤフニヲ少シツ合スレバ

腐肉努肉カ、リテ毒気深ク閉ツルニ依リテ臭気

強キヲ治ス

ゴノキステイビト 等分ニ合スレバ

愈ス一ツヨシ

ゴノキステイビト アホストロウウロニトヲ合スレバ

諸腫物ノ膿水大羊減ジテ後ノセシ膏葉ニ用ユ

ムスラギニブスト コムクスト 三合スレバ

諸腫物ヲ引キ揚グル一至テツヨシ

丹卷ノ焼片シヲ加エテ

癭瘤翻花瘡ノ類惣ノ蠟系切リニスベキ物ク、リ

落スベキ所エヌリ付レバ能ク腐脱ス

カシラアト 等分 ヲレシピタルウシ 加フレバ

痔瘡等ノ腐リヲ能ク止ムル

アレシピタル許リ加エ フラドイニミテ洗フ

諸物ノ腐リヲ止ムト強シ

イケビシヤコントアホストロウロントヲ合スレバ

能ク腐ヲ止ムト強シ

○ムスラギニブスニ

コムコムスラ 合スレバ

諸腫物ヲ引キ揚グル内ニ能ク気ヲ和スルエエニ痛ヲ

ヤワラゲテラダヤカニ表敷ス

紅花 小茴香ノ末ヲ加フレバ

諸腫物ヲ散ス一強シを温散ノカツフラスマ又隔蒜

灸ナドヲシキリニ用ユベシ又紅花ヲ大ニ加フルモ良シ瘰

癧乳岩等ノ塊ヲ温散ス

コムコムストヲアレエギルヲ三合スルトキハ

諸腫物ヲ引揚ルーツヨシ

小茴香ノ末ヲ大ニ加フレバ

大温熱ニナリテ表気ヲ能クヒラキ血脉ヲメグラシテ

心胃ノ消散ス

○ベレシピタアルヲ

チキステイビニ少シ加フレバ

腐リヲ止メカワカシ愈ス諸腫物ノ腐リ強キ物ヲ他某

ニテ腐リヲ止テ後ノ愈某ニ用ユベシ

メルロサアロニヲ合メ

腐リヲ止メ正肉ヲ生ス

○カニフラアトニ

ベレシピタアルト銅録青トヲ少シヅ、加エテ

疔瘡等ノ腐リヲ止メ腐肉努肉ヲ能ク流ス

ヲ、リヨカニフルトヲ、リヨロサアロニ大子リ交セテ

内痔ノ刺シ某ニ用ユ其上燒金ヲ當ツルトキハ内痔枯落
ス後洗某ニテ洗フベシ

枯荖ノ末少シヲ加エテ

痔核ヲ系切ニシ或ハ燒キ切り或ハ鋏ニ切りテ後切瘍
ニ血出ズルニ用ユ血ヲ止メ愈ス

ベレシピタアルヲ加エテ

鵝掌風ニ付ル又

鉛ノ燒キ返シヲ加エテ

同上疔瓜甲ニ入ル者ニ付心能ク治ス

○タラアヌスコメリクリヨシヲホリコスニテモ可ナリ

毛綿ニ厚ク伸べ付ケ其上ヲ板鉛ニナマリヲ槌ニテ打ナヒシキ板ノ如クニス

水銀ヲ塗リ押エ又毛綿ニテ巻キ置ク

瘰癧癭痛気腫痰腫乳岩結毒骨疽ノ類頑頑

ニシテ散リガタキ物ヲ消ス又草ニ伸べ付ルモ有

内痔リ又樟腦ヲ加フレバ功力を強シ

諸腫瘍癰表蒸

癰疽諸腫瘍表發ノ劑ナリ古仕掛書ヨリ写シ出

カツプラスマ之類ハツパスル云フ蒸菜ナリ口傳曰打身乳岩瘰癧ニハ蒸菜ヲ禁ズ

野菊ノ花 冬葵ノ根 山燈心草

防風 各十五钱 荊芥 薄荷

小茴香葉 各十钱是ナキトキハ實ニテモ

右七品細末メ水ヲ入レ煮テ能クノ熱クナリタルトキ焼酎ヲ
ウチ其マ、カキ交ゼ毛綿ニ包ミ瘡上ニ着ケ又毛綿ニテ巻
キ置ク冷レバ去ル

諸瘍温和蒸癰疽諸腫瘍温和スル劑ナリ熱勢強カラザル症此方良

- 胡蘆巴 傳白無キトキハ葱ヲ用ユ
- 胡麻仁
- 葱白根
- 紅花
- 小茴香
- 茨ノ花

野菊ノ花

右七品前方ノ如ク調フ 古仕掛書ヨリ写シ出ス

諸腫物結氣熱閉スル症ニ宜シ又二十歳前後ノ女子ナドニ房氣ヲ過シ小便通ザル一有ル者ナリ此方宜シ 口傳書

- 忍冬
- 艾葉
- 葱白 連鬚

- 車前草
- 楠葉
- 荊艾

蔞羅子

右七品鹿末ニノ鍋ニ入水ヲシトクウチ煙ノ立ツホトニイリ燒耐ヲ入カキ交セ毛綿ヲ二三重ニシ包ミ蒸スベシサムレバ去ル但シ水燒耐トモシタルヤウニ入ルハ悪シシメリタルマデニテヨシ

諸瘍頰流蒸 **諸腫物諸痛或ハ氣血経絡ノ壅滯ヲ開キ頰流スルノ劑ナリ**

或ハ長病大病ノ後腸胃ノ氣ヲ塞ギ小便通ゼザル一アラバ此方ニテ臍下ヲ蒸スベシ氣ヲ順シテ便通ス但シ虚症ノ水腫小便不

通症ハ益ナカルベシ臍下小腹膀胱張りタルハ氣塞テ通ゼサル
症ナリ腹体ヲウカ、ウベシ 中傳書

當歸

黃芪

艾葉

忍冬

葱

根葉トモ

車前草

右六品前法ノ如ク調フ

風散蒸 **風毒**ニ中リテ痛ムヲ發散シヤワラグル劑ナリ 中傳書

防風

荊芥

薄荷

忍冬

車前草

艾葉

連鬚葱

右七品前方ノ如ク調フ

囊腫蒸 **陰囊**赤腫疼痛小便閉テ消散セザル者ヲ蒸ス 此掛囊瘻
門ヨリ移ス

白百合根

冬葵根 葉 各十枚

烏柿 十箇

胡麻仁

胡盧巴 各八枚

鼠麴草 十枚

小茴香 五枚

大麥粉 見合

右八品各細末熱湯ニテ子リ糊ノ如クニシテ毛綿ニ付ケ腫
上ヲ捲キ温メ蒸スベシ

囊二蒸 **又方**

調劑ヨリ移ス

大麦 二十支 小麦 六十支 茨の花 二十支

右三味酒ニテ者其毛綿ニ包ミ腫上ヲ蒸スベシ

痔腫蒸 下痔瘡腫痛ノ者ヲ治ス 古仕掛痔瘡門ヨリ移ス

楠葉 十支 防風 一支羊 荊芥 同

摩訶羅根 同 不知代ニ白百合根ヲ用ユ 得菴謂按スルニ林華

二十七卷百合ノ釈名ニ別録曰一名摩羅ト云恐クハ 其ノ字衍カ

右四品細末メ帛ニ入燒耐ニテ者其テ蒸スベシ

痔痛蒸 諸痔瘡痛突キ起スル者ヲ治ス 古仕掛痔瘡門ヨリ移ス

葵ノ葉 アホヒ 連錢草葉 カキトラシ 午膝葉 イノコヅチ 各二十支

右三品水三升入二升ニ剪ジ滓ヲ去リ 枯荖 末五支 入攪キマ

甘草綿ニ浸シ熱ツクシテ肛門ヲ蒸スベシ

肛一蒸 脫肛腫痛ノ者ヲ收メ治ス 古仕掛脫肛門ヨリ移ス

葵 根葉トモ 三十五支 肉豆蔻 十支 連錢草 四十支
柘榴皮 二十支 楨榔子 十支

右五品水二升五合入二升ニ剪シ滓ヲ去リ磁罐ニ入火爐ニカケテ
大キナル竹箱ノ中工入湯氣ヲ箱ノ内ニ充タシメ箱ノ蓋ノ正中ニ孔ヲ
ウガチ其孔工毛綿ヲ當テ肛門ヲ其所工乗セ湯氣ニ隨ツテ
蒸スベシ又ハ滓ヲ以テ絹ニ包ミ肛門ヲ温メ押シ入ルモ良

虹二蒸又方

此方同前

麦飲ヲ熱ツクシテラ、リヨロザアロシヲ交セ合セ絹ニ包
ミ脱肛ヲ捲キ蒸シ又腰及ヒ腎ヲ蒸シ温ム自ラ収ル

三味
通水蒸水腫小便ヲ通利スル方

此方同前 水腫脹滿門

大蒜

車前子

連銭草

各等分

右三品焼酎ニテ煮熟シ絹ニ包ミラ、リヨレリヤウロシヲ腑中
及ビ小腹ニ塗リ其上ヲ蒸シ温ムベシ小便自ラ通メ腫レ消ス

眼腫蒸眼目腫痛ノ者ヲ治ス

此方同前 眼目門

車前草

連銭草

薄荷

各三钱

小茴香葉 各二钱 胡黄連

石菖蒲根

各二钱半

右六品細末絹ニ包ミ焼酎ニテ煮熟クシテ眼上ヲ蒸ス冷コ
ルトキハ取り換ユベシ

金瘡通水蒸金瘡諸病一切小便通セス諸菜應ゼサル者ニ尤效

金瘡書
中ヨリ移ス

野菊花

山燈心花

金銀花

冬葵 根葉トモ

艾葉 各等分

茨花 少

右六品酒ト水ト等分入剪シ毛綿ヲ二三重ニタ、ミ右ノ渣ヲ

包み小腹及ビ腰ノ廻リヲ温メ蒸シテ自ラ通ズ

五味
通水蒸又方

伴掛書中大小便閉門ヨリ移ス

- 野菊花
- 山燈心花
- 金銀花

- 冬葵 根葉トモ 各四十枚
- 曾馴松實 二十五枚

右粗ク末シ酒ト水ト等分ニ入レ炭火ニテ煮テ酒水乾キ尽ルト
キ取り出シ毛綿ニ包ミ小腹及腰ノ廻リヲ蒸シ温ムベシ小便即

利

ゼイヌシ葉 全葉 ゼイヌニ當リ 腫張疼痛忍ビガタキヲ治ス 金瘡惣身ノ部ヨリ移ス

フロウリヌカモイリ 野菊花 饅頭ノ皮ノ中ノ白肉 各十枚

サフラン ニ枚 各細末

右三品乳汁ヲ見合入レ微火ニテ糊ノ如クニ煉リ火ヨリ下ロシ
玉子ラーツ黄ノ白共ニ入レ交セ合セ木綿ニ厚ク塗り温カナルヲ
膏藥ノ上ニ付テ其上ヲ毛綿ニテ巻キ置クベシ

通用蒸諸瘍通治常用之劑甚奇効有リ 得毒考

- 當歸
- 川芎
- 荆芥

- 薄荷
- 防風
- 車前草

- 小茴香 各等分
- 葱 連鬚上七品分 量程ハ
- 艾葉 上七品合シタル 分量程ハル

右九品鍋ニ入水ヲシタノクニ入レ能ク煮テ少シカワキタルト

キ焼酎ヲ手ニテウチ其マ、攪キ交セモ綿二三重ニ包キ患
所ニ當ルサムレバ去ル水焼酎トモ汁タル程ニ入ルハアシシ湿メリ
湯氣ノ出ルマテニス○又畧スレバ右ニ藥品ヲモ綿ノ袋ニ入レ錫
ニ水ヲ茶椀ニ五盃酒ヲ茶椀ニ三盃入或火ニテ煮テシホリ上
ゲ藥袋ヲ患所ニ當テ蒸スナリサムレバ去ル袋ハ藥汁ノ中
ニ入置又蒸ス一回断如此スル一日々ニ五六度即チ茶ヲ換フ
酒水減ラバ右ノ分量ニテ跡ヨリ入ル

諸腫瘍ノ初メニ用ユレバ毒氣ヲ表出メ心能ク潰爛シ諸腫
瘍治ス誤リテ久シク治セズ虛症ニ成リ膿水清ミ肌肉力
ワキ漏症ノ如クナルニ用テ元陽ヲ回シ肌肉ヲソダテ津液ヲ

生ジテ心能ク平愈ス右外貼内服是ニ隨フ性質虛弱ノ

人此ノ症有ルモ同前或ハ筋骨屈曲骨疽疔毒膝風毒等ヲ治ス

得竜一人ヲ治ス年五十余歳ノ男子風濕ノ毒ニ感シ全身ヲ

痛苦スル一年余諸匠術ヲ尽メ治セズ後羊年ノ内ニ痛漸
ク止ミ少シク快然ニ似タリト虽ドモ手足腰背ノ骨節或ハ伸
テ屈マズ或ハ屈テ伸ビザル相雜ワル殊ニ久病誤藥雜乱メ
元氣ヲ消シ脾胃虛脱シ床上ニ仰キ卧シテ少シモ全身ヲ
運動スル一能ワズ節々漸ク太トリ間肉自ラ脱シ大小便居
ナガラ通シ飲食他人ニ任ス予是ヲ診スルニ病勢漸ク尽キ
氣血運養ノ力無キニ依ル因テ益氣太補八珍之諸湯消

息調治シ外ニハ此ノカツプラスマヲ用ヒ全身骨節ヲ熏
蒸スル一日夜五六度乳麩散ヲアルデイヤ等ヲ以テ是ヲ
タスク且ツ骨節ノ伸ビタル所ハ巻キ毛綿ヲ以テ次第ニ屈
メ屈ミタル所ハ漆工木等ヲ巻キ付ケテ是ヲ伸ス如是スル
下羊年余元氣日ヲ追フテ回リ全身日日引キ伸ス如ク
全ク愈エルヲ得タリ

又一人驚膝風ノ症ヲ治ス年三十余ノ男子病ム一二年計
リ諸治驗シ無シ起座全ク能ワス予外治前條ノ如ク内

天防風湯或ハ虎突丸

香月牛山翁ノ方ナリ予ス
是ヲ用テ効ヲ得ル一多シ

等ヲ用ヒテ

ニヶ月全ク愈ユ

又二十余歳ノ男子疝瘡便毒梅毒瘡骨痛等ヲ患エ土茯苓
苓或ハ輕粉諸劑ヲ服メ諸症愈テ後兩膝痿痺シテ覺
エズ起歩セザル一一年半計リ諸治効ナキニ依リ瘥トシテ治
セス予是ヲ治スルニ大劑ノ土茯苓劑午膝木瓜ヲ加エ虎突
丸ヲ兼用シ此ノカツプラスマヲ用テ前々條ノ如クスル一ヶ月
全ク愈ユ道ヲ隔ダツル一三十丁余予ガ門ニ歩シ来リテ其
功ヲ謝ス是レ專ラ此ノ方ノ効力ナリ無益ノ長談ト虽トモ
偏ニ此ノ方ノ効驗ヲ表スル而耳

右ノ類ヲ治スル一數多其外治驗少ナカラズ

○ラウメントノ類

是レ畫語ノ洗葉ト云フナリ是部ニ出ス諸ノ洗葉ノ方ハ當流ニ古来ヨリ用ヒ来ル仕掛ノ書並ニ師家代々ノ口傳聞書キノ中各門ヨリ撰リ出シ集テ日用ニ見易カラシム又予ガ新撰ノ仕掛ケ陰集陽集兩卷ノ各門夫々工名目ヲ出シテ用葉ノ便利ヲ相為ス但シ當流ニ古来ヨリラウメント、稱スルモノハ水集ニ出ス二味ノ一方ニシテノ外ハ皆ナ洗葉ト稱ス予按ズルニ右ノ二味ノ方ニ無尽ノ効アレバ此ノ一方ノ名ノ如ク覺エサシタル者ナラシ是部ニ出ス洗葉ラウメント多シト云ヘドモ此ノ二味ノラウメントノ方ヲ專ラ主トスベシ門々ニ出テ丸法ノ如シ

肺癆洗 肺癆洗藥

陰集考フベシ

小茴香

十五钱

虎ノ尾草

五十钱

大麦

八十钱

耳草

十钱

右四品水三升入レ一升五合ニ煎ジ又アルロサアロシヲ二十钱加工

水突ニ盛り瘡口ヨリ洗フ

囊癰洗藥

山燈心草

曾馴松實

車前子 各二十枚

楠葉 十五枚

右四品水五升入三升ニ煎シ渣ヲ湯手ニ包ミ藥汁ヲヒタシ患所ヲ洗フ

疔一洗 疔瘡白泡ヲ生ジ痒痛紫黒ヲ生ズル者ヲ洗フ方

楠ノ葉 百枚

金銀花 三十枚

右二品水二升入一升三合ニ煎シ洗フ

疔二洗 又疔瘡皮ノ内ニ瘡アリテ疣目ノ如クナルモノヲ生ズルハ藥

カ内ニ徹シガタシ此ノ藥ニテ洗フベシ

燒酎 五十枚

樟腦 三枚

紅花 二枚

右三品交ゼ合セ温メ水突ニ盛り洗フベシ又平メイチヤニヒタシ外ヨリ卷クベシ 得童謂常用メテラントイニカニアルヲ用テ可シ

疔三洗 又下疔年ヲ経テ愈エズ腐爛甚シキ者ヲ切り落シ法初卷陰集考フベシ

後此ノ藥ニテ洗ヒ膏藥ヲ貼ス

楠葉 車前草

連錢草

金銀花 各等分 藍汁 少

右五品水煎洗フ

陰一洗 婦人陰瘡洗ヒ藥 古仕掛書

楠葉 五十枚 連錢草 大菖蒲

車前草 各三枚

右水一斗入七升ニ煎シ洗フ

陰二洗 又方 中傳書

金銀花 車前草 黃連

黃芩 石菖蒲 楠葉

右六品各三十枚水三升入二升ニ煎シ夫レヲニツニ分ケ一ツ分ニ粘卷ヲ三分程ツ、加工能クカキ交ゼ温メ洗フ一毎日兩度

陰三洗 又方 中傳書

馬鞭草 生大 蒼耳子 破ト刺トヲ去リ小 菖蒲葉 生中

右三品水煎羊分ニ煎シ二番ニ三步ニ煎シ兩度ニ洗フベシ

陰四洗又方

中傳書

挑葉

菲葉

右二品等分煎シ洗フテ
婦人陰中甚ク痒キラ治スル一妙ナリ

茎中洗

痲疾陰茎中ヲ洗フ又痔瘡ヲ兼ヌル者ヲ治ス

仲撰書

茶

五朶

忍冬花

即金銀花

一朶并

右二品水百目入七十朶ニ剪シタルロザアロシ五朶入能ク交合
シ水突ミテ水道ノ中ヲ洗フ一毎兩度ツ、内ニハ另五卷
并集ニ出ル丸藥ヲ用ユベシ
得菴謂師傳ニハ當流ノ二味ノラウメントラ
以テ洗フ奇ナリヌヲ、リヨロザアロシヲ、

リヨレリヤウロシタルロザアロシノ類症ニ依リ見合セ加フ

肛洗藥方

中傳書

搔ノ葉

生六十枚

青木葉

生六十枚

金銀花

三兩

車前草

三兩

石菖蒲

三兩

右五品ニ水三升入二升ニ剪シニツニ分ケ兩度ニ洗フ但シ一度
分ニ丹卷ノ燒キ片シヲ末メ六分ツ、入カキ交セ湿メ洗フ

肛二洗又方

中傳書

搔ノ葉

大小三十枚

青木葉

大小三十枚

右二品キザミ水見合ニ入レ剪シ渣ヲ去リ丹卷ノ末三朶枯
卷ノ末六朶入カキマゼ洗フ腫ヲ消メ自ラ納ル

通水洗水腫脹満ヲ消スル洗ヒ藥

生薑

五十朶

連錢草

百朶同シクハ生ヨシ
俗ニカキトラシト云フ

右二品水二升入レ一升ニ剪シ渣ヲ去リ頻リニ腫上ヲ温メ洗フ

癩風

穢掌風

眼目

疥瘡

等洗菜土集各門ニ出

金瘡穴深キ者ヲ洗フ方

金書手足ノ部ニ出ラウメト云

